

平成30年度 学校自己評価システムシート (学校法人狭山ヶ丘学園 狭山ヶ丘高等学校)

目指す学校像	学力向上と部活動の充実発展および進路実現を目指す。
--------	---------------------------

重点目標	1 大学合格実績の伸長 2 教科指導の徹底と学力向上 3 部活動の活性化 4 基本的生活習慣の構築
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	10名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	0名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (4月5日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 上位大学を目指す進学意識が低い。 受験勉強を始める時期が遅い。 将来の目標を持っていない。 大学入試の変更に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標大学の動向をみる。 補習、講習への参加人数の動向を見る。 模擬試験等の偏差値動向を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導やガイダンスの際、上位校を目指す指導をする。 学習の進め方指導や苦手教科の克服指導に工夫を凝らす。 自学自習の確立を指導する。 ガイダンス等で情報を生徒に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 上位大学を目標とする生徒の数 模擬試験等において偏差値が高まった生徒の数 早い時期に目標大学を決め、その意志を持ち続けた生徒の数 	<ul style="list-style-type: none"> 補習、講習にやる気のある生徒の定着があった。 国公立大学志望の生徒の数に大きな変化が見られなかった。 私立大学志望生徒が自分の実力相応の大学志望に変わっていった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上がないと上位大学志望は難しい。いかに学力向上を成し遂げさせられるかは自学自習が深まっているかによる。集中力と忍耐力は必要になる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 予習、復習を徹底させ、授業内容を充実させること。 先生により導入の分かりやすさに差がでて、生徒の取り組み方が変わって来ている。 どこまで理解したかを把握しきれていない様子。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容、特に分かりやすさと関心を引く度合いに着目。 小テストを使って理解度を見る。 質問をする、答える度数に着目。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入を工夫して、展開をていねいにして、分かることを実感させる。 展開の中で、発展・応用への展望を生徒が持てるように指導する。 授業に変化を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自学自習をするようになったかどうか。 生徒の授業への満足度が高まったかどうか。 生徒の実力が向上したかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中するようになり、理解している度合いが増した。 導入と展開・発展のバランスが難しく進路調整に時間が掛かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観、研究授業をもっと積極的に行い、授業の質的向上を図る。 教科会等を利用して、分かり易い授業と入試問題の研究をする。 やる気にさせる授業を考えて見たい。
3	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな目標を持った部活動があってもよい。勝つことを目標とした強化部、また、勉学と両立しながらの一般クラブがあるが、文化系部活動を活性化させることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 試合や発表会の結果 活動報告の度数 体育祭や文化祭等で見る活動内容 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に全生徒が参加できるように呼び掛ける。 短時間でも集中した部活動にできるように練習内容や活動内容を模索する。 練習試合や小さな発表会等を利用して、モチベーションを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への参加数が増したか。 活発に活動しているクラブが増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動顧問会にて生徒の参加状況等を把握できた。 クラス担任は面談等を通じ、両立のための適切なアドバイスをした。 クラブの試合報告や活動報告をした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 試合結果や活動報告等を広く発表し、活躍を告げる。 応援できる環境の整備 短時間で効果的な部活動の運営を更に模索する必要がある。
4	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣は概ね、確立されており、欠席、遅刻、早退は少ない。 挨拶がしっかりできる生徒はそんなに多くはない。 状況を弁えた行動がとれない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行 弁えた行動がとれる。 校則を遵守する。 自転車の適切な乗車。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生から声を掛ける。 予告など事前に十分指導、説得し、その上で校則を守らせる。 担任のHR時の指導をしっかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校則違反者がどの程度減ったか。 挨拶が交わされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 違反者の数が減った。 部活生の挨拶はしっかりできている。 まだ、弁えた行動がとれない生徒はいるが、その数は減った。 自転車を並列乗車する生徒が見受けられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校則違反者に妥協しないで注意をする。特にHR時の担任指導は大切である。 あらゆる機会に違反者を正す姿勢が必要。間髪入れずに注意できるかである。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和元年5月29日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 進路指導については個々の対応をしてもらったことは評価される。しかしながら、不十分な対応もあった。 2年、3年次の学年を超えた連携指導も必要だと思う。 塾に通う生徒が一部いるが、塾の必要性は議論のあるところだ。 	
<ul style="list-style-type: none"> 効率的なノートの取り方など基本的学習習慣を徹底してもらいたい。 きめ細かい個人指導は評価される一方、理解の遅い生徒の対応が必要。 	
<ul style="list-style-type: none"> 一般クラブの中には練習時間がはっきりしないクラブもある。 朝練習など短時間の活動が評価された。 	
<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールを守れない生徒がいる。 生活の記録を取る習慣は、生活のリズムができて、評価をうけた。 全体としては態度が良い生徒が多いが一部、思慮の足りない態度を見せる生徒がいるのが残念である。 	